

第 679 回 役員会(臨時) 議事概要

1 日 時 令和 8 年 2 月 16 日 (月) 9 時 30 分～10 時 00 分

2 場 所 Zoom 会議

3 出席者 構成員 7 名 :

染矢学長、川端理事、大鳥理事、小野寺理事、住吉理事、堀江理事、塚本理事、(欠席：澤村理事)

陪席者 4 名 :

菊地特命理事、末吉特命理事、岡監事、赤塚監事

4 審議事項

(1) 「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」への申請について

「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」への申請について、資料 1 に基づき審議が行われ、最終的な内容修正は学長に一任することとし、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・資料 2 ページ目の「企画概要」において、ポイントとなるキーワード「全国的にも先導的に取り組んでいるダイバーシティ推進センター」「デザイン探究キットによる独自性」「附属学校との連携」を太字にするなど、審査員に強みが一目で伝わるように工夫をすると良いと思う。
- ・資料 7 ページのイメージ図 (ハウストリー) は非常に分かりやすく、親しみやすいデザインで良い。他大学のプログラムとの差別化として、小学校・中学校の早期段階で、理系進路に対する「無意識の偏見」を排除し、理系への入り口を広げている点をより強調してはどうか。

(2) 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換の実施に向けた調書の提出について

国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換の実施に向けた調書の提出について、資料 2 に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・ミッション①への移行は極めて困難な挑戦ではあるが、タイミングとしては適切であり、チャレンジすべきである。

- ・ タイミングとしては今しかないということがよく分かった。
- ・ 個人的な意見を言えば、地域のための大学であって欲しいというのが正直なところではあるが、研究力の強化という茨の道を選択することが、結果として地域社会への更なる還元につながるのであれば、執行部の方針を支持したい。
- ・ 人と社会の未来を切り拓くという、大学が本来持っている責任を果たすためには、何よりもまず研究力を高めることが欠かせない条件だと考えている。その上で、新潟の地域特性等を大切にしながら「地域に根ざしつつ、世界にも目を向けた大学」として、地域と共創して新しい価値を作っていく姿勢はこれからも変わらないということを、改めて丁寧に説明していく必要があると感じた。
- ・ 「地域に根ざした世界の研究大学」という視点は非常に良い。地域に優れた大学があることは、優秀な人を引き寄せる力になり、研究者も増える。さらに、企業の投資が増えることにもつながるため、地域に一番の大学があることは、地域社会にとって極めて重要だ。
- ・ 日本の新潟にとどまらず、世界の新潟を創生する。そのための大学の改革であると捉えてもらえるよう、視野を広げて発信していくことで理解が得られやすくなるのではないかと。